

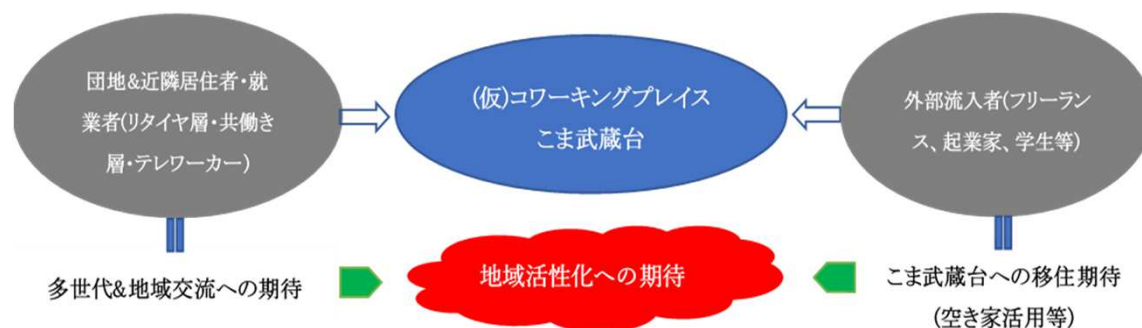
■「こま武蔵台」の課題対応(空き家リノベ)

- 東京大学の学生が中心とな子どもとつながる、子どもがつなげる家」をコンセプトに若い世帯が住み易く、団地の方との交流に結び付くようなりノベーションを実施(2019年4月)



■「こま武蔵台」の課題 対応(ワーキング)

- リモートワーク、テレワークの普及など多様な働き方が浸透しつつある中、働く場所(コワーキングプレイス)としての郊外住宅地の可能性について実証スタート実施(予定)



自宅周辺で働ける環境づくり

ii. COVID-19による変化

ーテレワーク需要の増加と、必要となる環境の見直しー

1. テレワーク需要の増加

- こま武蔵台の20歳から定年前の人口が1567人(令和2年4月1日時点)
- 世代ごとのテレワーク継続意向から330人ほどのテレワーク需要の発生
- 週1回、半数が在宅としても18席では不十分
- 今後新しい移住者を受け入れるならこれ以上の需要が発生

2. 個室環境の必要性の増加

- 既存のコワーキングスペースには個室スペースがない
- zoom等を用いたweb会議はできないという住民の声



コワーキングスペースの内装



コワーキングスペースの平面図